

「海ごみ」考える

酒田東高 海岸清掃活動通じて



気温が上昇する中、活動に精を出す酒田東の生徒たち加。マスクがうっとうしく感じる暑さの中、生徒たちはトンクや可燃・不燃のごみ袋2種を手に約1時間にわたって、広く海岸一帯に散乱しているペットボトルやビニール類など人工物を丁寧に拾い集めた。

政木郁也さん(17)と武藤勇翔さん(16)は「意外と多いという印象で、全体的にプラスチックごみが目立つ。ガラス片など危険物もあり、海水浴シーズンを前に活動ができ良かった」と話した。

県立酒田東高校(大山慎一校長)の2年生164人と教職員が25日、酒田市の宮海海岸で清掃ボランティアを展開、気温が上昇し、海よりの風もほとんどない中、生徒たちは額に汗しながら打ち上げられたごみを拾い集めた。

2年生は昨年、課題研究

の一環でNPO法人「パートナーシップオフィス(同市、西村修理理事長)の大谷明さん」を講師に招き、マイクログラスチックを含む「海ごみ」について学んだ。この学びと運動させ、生まれ育った庄内の海岸をきれいにするとともに、庄内浜の現状を目の当たりにすること

で自らが取り組めることなどを考察してもらおうと同校が企画。同法人とともに県庄内総合支庁、東北公益文科大学が事務局を務める「美しいやまがたの海プラットフォーム」、市などが協力した。

この日は2年生と共に、大山校長はじめ教職員も参